

学校目標・経営方針	自ら学ぶ態度の育成 体力と気力の充実 全人的な人格の形成		
本年度の重点目標	1 自ら学び自ら考える力を養う 2 確かな学力の定着と個性の伸長を図る 3 健康の増進を図り、豊かな人間性や社会性を培う	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上) B 概ね達成できた。(6割以上) C 不十分である。(4割以上) D 達成できなかった。(4割以下)

校長 飯田 春彦	
評価	4 良くできている。 3 おおむねできている。 2 あまりできていない。 1 できていない。

平成31年度の重点目標				令和元年度末評価	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度
1	○ 自主自立の精神を養い、明るい校風の樹立に努める。 ①学校生活のあらゆる場面で、自ら考え、行動する態度を育成する。 (1)学校経営	【教務】 ①教育課程による教育活動、さらに部活動や自発的な活動において、自身の現状の把握を元に、自らを振り返り、課題を見つけてその解決に向けて学習・行動できるよう指導する。	・各活動において、自身の現状を把握状況 ・適切な振り返りと自己課題の解決状況	先生(学校)は探求型授業を通して、自ら考え行動する態度を育成しているの質問項目については、生徒、保護者とも「そう思う」「ほぼそう思う」合わせると90%近い評価をしている。一方教員の評価は75%程度となり、やや低い。	B
	○ 基本的な生活習慣の確立に努め、進路を実現する力を育てる。 ②生徒一人一人を理解し、個々の進路希望を実現させる。	【教務】 ②生徒一人一人の実態と進路目標に即した現行教育課程の改善と実行を図る。新学習指導要領を見据え、新教育課程に向けた研究を行うとともに、教員の理解度の向上を図る。	・現行教育課程が生徒の進路実現に即しているか ・新学習指導要領の理解度	生徒も保護者もほとんど(92%)が学校の教育課程が、進路希望や興味関心に基づいた科目選択ができるよう改善されていると感じており、高い評価をされている。教員の評価は、75%程度でやや低く、特に「そう思う」は25%を切っている。	B
		【企画研究】 ③職業研究・学部学科研究・職場見学・職場体験・オープンキャンパス等により、生徒に自らの進路を主体的に考えさせる指導を充実する。	・生徒のキャリア意識を高める進路指導関係行事の取組 ・「Xキャリアプロジェクト」の生徒の満足度	キャリア形成に必要な能力や態度の育成については、「そう思う」「ほぼそう思う」と生徒や保護者は90%程度が回答しているのに対し、教員は70%とやや低い。	B
		【進路指導】 ④生徒の進路目標達成のため、各学年で必要な進路行事の実施・検証を行う。また、情報共有の電子化に向けて、Classi等の利用を推進する。	・アンケートの実施と分析 ・新入試の情報発信 ・Classiを用いた情報管理	新入試への対応には教員、生徒、保護者との情報共有が不可欠である。アンケートでは「そう思う」「ほぼそう思う」が生徒は8割、保護者は9割であるのに対し、教員は6割と低くなっているが、ICT利用の習熟度が差となったと考える。	B
	○ 学びの基礎となる言語活動、探究活動の充実を図る。 ③言語活動、探究活動の実践を通し、主体的に物事を探究する力を身に付けさせる。 (2)研究研修 (10)情報・図書館	【企画研究・授業改善推進リーダー】 ⑤各教科・特別活動・総合的な探究や学習の時間で論述、発表、記録、報告、討議等の対話的活動を積極的に取り入れ、知識・技能を活用する力、思考力・判断力・表現力を育成する。同時に、教師の授業力改善に取り組み、指導方法等の共有と協働に努める。	・各教科・特別活動・総探や総学等での成果発表 ・「NAL通信」への寄稿及び配信	単元ごとの探究活動については、「そう思う」「ほぼそう思う」と生徒86%保護者83%が回答したのに対し、教員は78%であった。一方、授業改善については、生徒・保護者・教員ともに85%以上が「そう思う」「ほぼそう思う」と回答しており、先生方もさらに意識的に授業改善を行っている様子がうかがえる。	B
		【総務・図書】 ⑥読書活動を推進し、読書を通してものの見方や考え方を広げ、情報を適切に判断し活用する力を育成する。	・図書館の図書貸出数 ・図書館と連携した授業等の実施	「学校は読書活動を推進している」については、「そう思う」「ほぼそう思う」と答えた生徒は73%、保護者は81%であった。一方、教員が「自ら読書活動の推進に努めた」は68%と低かった。朝の読書指導や図書館での本の紹介、様々なイベントによる読書活動推進の取り組みなど、毎年改善を加え、使いやすく親しみやすい図書館の運営に努めている。	B
	○ 家庭学習の習慣化と自ら学ぶ態度の育成を図る。 ①授業と家庭学習の連動を図る。 (9)学年指導・運営	【1・2・3学年】 ② 1学年:高校生活で学習と部活動の両立が可能となるよう支援し、家庭学習の習慣化と基礎学力向上のため、まず紙面による家庭学習表の記録に馴染ませ、Classi(学習支援ツール)の活用による学習・生活記録の習慣化、自己管理能力の向上へとつなげる指導を工夫する。 2学年:与える課題の目的やねらいを明確に伝えた上で課題に取り組ませ、Classi(学習支援ツール)の活用により自己の生活習慣や学習状況を客観的に振り返らせることで、生徒が自主的かつ主体的に学習に取り組める指導の在り方を工夫する。 3学年:生徒が自ら自己の学習状況や学習課題を分析し、必要な学習計画を立て、その実践ができるように支援していく。家庭学習表を通した担任とのコミュニケーションを有効に活用できるように工夫する。	・週末課題等の提出 ・家庭学習表の活用 1学年:スティーサポートの学習状況リサーチ結果、家庭学習表およびClassiの集計結果 2学年:週末課題等の提出状況及び試験等の結果、Classiの集計結果 3学年:家庭学習表の提出状況、定期試験・模擬試験の結果、生徒の自己評価	1学年:Classiを活用した学習・生活の記録の習慣化については、現在、平日約95%の生徒が朝SHR前までの入力ができている。また、家庭学習の習慣化と部活動との両立のため、1年生に必要な自己管理能力を客観的に考える材料として、担任がデータを資料として活用し懇談や学習成績の振り返りに集計結果を活用できている。 2学年:大学入学選抜改革に伴い大学共通テストが新たに実施される等の大きな変更を背景に、日常のホームルームや教科指導・学年集会等の機会を通じて意識の変化を促しながら、家庭学習時間の確保や主体的に学ぶ姿勢の重要性を伝えてきた。意識の変化が取り組みにも反映され始めた生徒が増加し始めた一方で、改善が十分みられない生徒も依然として存在する。 3学年:3学年はClassiを利用してないが、『学習の記録』の記入・提出を通して担任とのコミュニケーションの機会となった。このことは進路指導・生徒指導を行ううえで有効であった。生徒のコメントからは気持ち・思考が把握でき、担任のコメントから生徒の学習意欲・自主性が引き出されている様子も感じられた。	B

評価点	記述回答 意見・要望等
4	・以前の韮高の活力を取り戻しつつある。教育活動・部活動共々生徒はやる気があり、成果が上がっている。 ・生徒・保護者も評価していると思う。今後も先生方には、改善を進めていってほしい。 ・自らの現状を把握して、自発的に課題を見つけ目覚める行動をとれるよう努力してほしい。
4	・生徒個々の進路目標をつかみ、適切で具体的な指導がなされている。新教育課程の取り組みも期待している。 ・現場の多忙化の中で、素晴らしい指導がなされていると思う。
4	・教育環境が変化する中で、生徒も教員も大変だと思う。教員間で連携・相談・アドバイスできるシステムが作られればよい。
4	・地元企業、大学OBとの交流やコネクションの活用を。
3	・主体的に物事を探求する力を身に付けるためにも今後も指導方法を改善していただくさい。 ・前回の評議会でいくつもの授業を見学したが、対話的であり活気があった。 ・成果発表や寄稿・投稿が多く見受けられた。
3	・探究活動は、思考力・判断力の向上に大切であるが、負担感はどうか？ ・読書は理解力や考え方を広げるためにも推進してほしい。 ・読書を通じて、色々な考えを得て、判断力を育成してほしい。
3	・Classiについては本当にどの程度個々のデータが確認できるのか？効果が出ているのか？ ・1年生には学習習慣の確立を。2年生には入試改革への不安解消を。3年生には入試対策がきめ細やかになされていた。不調の生徒へのフォローをしっかりとしてほしい。 ・家庭学習表等必要なので、今後も続けていってほしい。

学校目標・経営方針	自ら学ぶ態度の育成 体力と気力の充実 全人的な人格の形成		
本年度の重点目標	1 自ら学び自ら考える力を養う 2 確かな学力の定着と個性の伸長を図る 3 健康の増進を図り、豊かな人間性や社会性を培う	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上) B 概ね達成できた。(6割以上) C 不十分である。(4割以上) D 達成できなかった。(4割以下)

校長	飯田 春彦
評価	4 良くできている。 3 おおむねできている。 2 あまりできていない。 1 できていない。

平成31年度の重点目標					令和元年度末評価	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
2	○ 基礎・基本の徹底を図り、個に応じた指導を推進する。 ①個に応じた指導を充実させ、個々の進路希望を実現させる。 (3)教育課程 (7)進路指導	【教務】 ③少人数・習熟度別授業の活用とともに、クラス単位の授業でも授業改善により効果的な、基礎・基本の定着と応用力の育成を図る。質問に来やすい職員室の雰囲気を作り、昼休み・放課後など授業以外の指導の充実を図る。	・授業アンケートの実施 ・相互授業参観の実施	教員の評価において、授業アンケートやClassi等を利用して、個に応じた指導を実践しているという項目について「そう思う」が16%、「ほぼそう思う」が43%、合わせても59%となり、アンケート項目の中でも最も厳しい結果となってしまった。生徒保護者アンケートでも合わせて75%程度と他に比べると少し厳しい評価となった。	C	アンケート項目の中に、授業アンケート、Classi等の利用、形成的評価、生徒へのフィードバック、個に応じた指導といった複数のキーワードが入っており、どの部分が評価を下げてしまったのか読み切れないところがあるが、テスト前の職員室の様子や推薦入試等の向けた小論指導、面接指導の様子を見る限り、個に応じた指導はかなり手厚いのではないかと感じられる。次年度に向けて、これら1つ1つの項目を徐々に改善させることで、全体の評価の改善につなげていく。
		【進路指導】 ④確かな基礎学力の定着と発展的学力のために、ICTを用いて定期的に生徒の学力を分析し、進路指導の方法と内容の改善を進める。	・進路行事の内容と満足度 ・模試結果等の分析と事後指導	進路行事については、内容や方法の改善したうえで実施している。アンケートでは教員・生徒・保護者すべてにおいて「そう思う」「ほぼそう思う」が8割以上となっており、生徒の学力向上に寄与している。	B	現状を把握したうえで必要な進路行事を行っているため、全体的に学力は向上している。ICT環境は揃いつつあるが、教員の利用率については個人差がある。学力分析や進路決定をする上でICTは非常に有効であるため、来年度は教員へのガイダンスと定期的に実施していく。企
	○ 授業内容・授業方法を工夫・改善し、生徒の能動的な学びの創造に努める。 ③授業改善に取り組み、自ら学ぶ態度の育成と学習習慣の定着を図る。 (1)学校経営・学校事務 (2)研究・研修	【企画】【SSH】 ⑤知識・技能の定着と活用する力を育成するため、主体的・対話的で深い学びを取り入れた指導方法・評価方法を工夫する。	・授業研究、教科研修会の実施 ・SSH教員及び生徒対象アンケート	主体的で深い学びのための指導方法や評価方法の研究について、生徒86%保護者82%が「そう思う」「ほぼそう思う」と回答している。それに対して教員は78%が「そう思う」「ほぼそう思う」と回答している。	B	中間評価では89%の先生方が「そう思う」「ほぼそう思う」と回答していたのに対し、年度末になるとその割合が10%以上減ってしまった。中間評価の頃まではうまくいっているかに見えた指導方法や評価方法に、年度末には改善すべき点が多く見えてきたということではないか。
		【教頭】 ⑥年2回の教員相互授業参観や個別面談を通し、授業改善を図る。	・授業アンケート、相互授業参観、個別面談の実施 ・ホワイトボード、ワゴンプロジェクト等ICTの活用状況	多くの教職員が、主体的で対話的な深い学びの実現を意識し、授業改善に取り組んでいる姿が見られた。教科によっては積極的に相互に参観し、情報の共有を図っていた。ICTの活用に関しても意識が高まり、積極的に機器を活用する状況が生まれている。	B	各個人や教科の中では、授業改善への意識が高い状況といえる。今後は、教科を超えた情報交換・共有できる体制を徐々に整え、カリキュラムマネジメントの観点から、育成したい生徒の能力の明確化とその分担化を図っていく。
	④SSH・NIE・国際交流等への取組を通して視野をさらに広げ、問題解決能力を身に付けさせる。 (2)研究・研修 (6)特別活動 (11)総務・国際 (12)SSH	【SSH】 ⑦SSHの成果を活かした全校体制での探究的学びを推進するために、探究活動のメソッドを明確にし、生徒に提示するとともに、指導者が共通理解のもと探究活動の指導を行えるようにする。外部の研究・教育機関等との連携体制をさらに充実させる。国際交流事業の充実を図る。	・ユニット制による課題研究の進捗状況 ・「スカラー」等の実施内容に関する生徒・教員のアンケート ・講演会や発表会の実施 ・サイエンス・ダイアログプログラムの実施と評価 ・ポートフォリオから読み取れる評価	「そう思う」「ほぼそう思う」の評価は教員が74%、生徒が79%、保護者が83%であった。内部評価に比して外部評価のほうが高くなる傾向があった。	B	実際に課題研究に取り組んでいる生徒はメタ認知が発達することで達成感を感じることができている。保護者も表向きの成果だけでなく、我が子の変容を感じているのではないかと。探究活動の指導は一定の答えがあるわけではないので、実際に指導に当たっている教員の評価は生徒・保護者に比して肯定的な回答が低い。しかし、探究活動の指導は経験を積むことが大切なので、課題を感じながら指導に当たることで指導力の向上につながると考えられる。よって今後ともSSHとしては外部連携をはじめとし指導のサポートを従来通り進めてゆく。 また、ユニット制をはじめとする課題研究の指導は改善点がまだ多いので、可能な限り先生方の意見を反映させて課題研究の質の向上を目指す。
3		【総務・国際】 ⑧海外研修(オーストラリア)やフェアフィールド市との交流等を通して、異文化理解を深める。	・交流活動への参加 ・研修参加者へのアンケート	「国際交流をとおして外国の文化や考え方を学べるよう支援しているか」については、生徒71%、保護者74%が「そう思う」「ほぼそう思う」と回答しているのに対し、教員は66%とやや低い。これは、海外研修やフェアフィールド市の高校生生徒との交流に直接関わっていない職員が多いためと思われる。しかし、授業や課外活動を通して異文化理解を深める取り組みは多くの職員が行っている。	B	今年はクナラ高校への生徒派遣の年であり、生徒にとって有意義な海外研修になるよう、事前研修をはじめ様々な準備を進めている。また、フェアフィールド市高校生の受入では、部活動での交流に加えて、SSH生徒との科学をテーマとした交流を行った。これらの交流に参加した生徒の中には、卒業後も交流を続けている生徒も多数おり、家族ぐるみの交流に発展しているものもある。15年以上続いている本校の国際交流事業は年々深いものになっている。今後も教職員の理解と協力を得て、文化・科学の両面で生徒により幅広い国際交流の機会を提供していく。
	(5)生徒指導 (6)生徒会指導・特別活動 (8)保健管理・安全管理 ①集団の活動を通して、自立的な生活態度を育成する。	【保健環境】【生徒指導】 ①「保健だより」等で生徒自ら健康管理維持を図れるように努める。マナーアップ運動や交通講話などを活用して、規範意識を高め、交通事故・違反を減少させる。防災避難訓練を通して、自ら危機回避、安全確保ができる判断力を養う。	・欠席・欠課数、交通事故・違反数 ・防災避難訓練の充実	生徒指導:①保護者、生徒ともに95%前後の達成感を示している。教員も担任以外の先生方もマナーアップ運動や街頭指導を通じ、学校全体で交通事故違反に対して取り組むことができている。②達成意識に比べ、事故は横ばいだが、違反件数は増加してしまった。 ①危機管理に対しても保護者、生徒、教員ともに高い達成感を持っている。②身近に災害が起きていないので、危機管理についての知識をしっかりと持っているか疑問である。保健環境:保健室の来室者は、怪我等を除けば、例年通りで自己管理に関する資質は向上しているように思われるが来室していない生徒の中には環境の変化についていけなく精神的に悩みを抱えている生徒は増加傾向にある。	B	生徒指導:①幸いに大怪我に至るような事故は発生していない。②道路交通法が変わって数年たつが自転車の「マナー」や「ながら」運転に対する危険意識を高めていく必要がある。③県内に限らず、全国で起きている事故事例を提示しながら、根気強く生徒に訴えていく。 ①事後アンケートでは多くの生徒が真剣に取り組んでいる様子がうかがえた。②訓練のための訓練にならないように、まず先生方が手本となる行動を示すことが重要。③各地で起きている自然災害の情報を発信し、災害時にどのような行動をとればいいのか日頃からしっかり考えさせる。
		【生徒会】【生徒指導】【保健環境】 ②学校生活の様々な活動を通して、自己の役割や責任を果たすことの重要性を伝え、豊かな人間性と社会性を培う。教員と生徒間のコミュニケーションを充実させ、信頼関係を確立することにより、いじめの未然防止、早期発見に努める。	①集団活動における目的意識や人間関係形成能力育成の取組 ②いじめ未然防止、早期対応の取組	①納め式において、文化体育にわたり多くの成果を披露し互いに評価しあうことで、仲間の活動を知り、理解する態度を養った。行事を通して、生徒同士または教員と活動の場を共有し、信頼関係を築く機会となった。①チャイム前行動や全クラスで実施している「いじめに関する」LHRなど、学校全体でいじめの未然防止、早期発見に取り組んでおり、保護者、生徒、教員とも80%以上が評価している。②担任や部活動の顧問を通じて、学年主任、管理職へ速やかに情報交換が行われている。保健環境:SCをなどを積極的に活用し関係機関との連携がとれた。	B	生徒会:①行事や取り組みを通して、全校生徒に何を提供したいのか目的を持ったうえで、企画運営をさせたい。②結果を出すことや作品を作り上げた成果だけでなく、その過程で人間関係を構築し、ともに成長できる場を作りたい。生徒指導:①第1回いじめアンケートで1件、第2回で2件の報告があったが、早期に対応できたためいずれも深刻な状況にはならず、学校全体での取り組みの成果が見られた。②ネットモラルについては、入校時をはじめHRなどでも指導をしていただいているが、生徒のモラルの向上になかなか結び付いていかない。③教員全体で「いじめ」はあて当たり前という意識をしっかりと持て、連絡を密に取りながら生徒一人一人を観察していく。

記述回答	
評価点	意見・要望等
3	・Classiをよく知らない保護者は評価が難しいと感じる。 ・個に応じた指導は、物理的に難しいのではないかと。 ・生徒・保護者の方から相談する雰囲気を作ってほしい。 ・模試を多くこなし、自分の力や欠点を知ることが、学力向上につながる。
3	
4	・授業改善は今後も積極的に進めてほしい。 ・自己評価をしっかりと行うことで、具体的な改善方法や、目標が見えやすくなる。 ・深い学びの場は、学校だけでなく地域も巻き込んだ展開も必要ではないかと。 ・SSHの実践効果で、科学部の研究が入賞、大村自然科学賞受賞など素晴らしい。 ・生徒自ら学習するやる気を喚起する授業を続けてほしい。
4	・探究活動のための準備をするための時間を教員が確保できるようにしてほしい。 ・様々な分野での指導に敬意を表します。 ・今後も引き続き外部との連携体制を充実させてほしい。 ・スカラーやサイエンスダイログプログラムの周知徹底を。
3	・生徒全体の海外研修は無理だが、交流は可能だと思う。機会を増やしてほしい。 ・アジア圏との交流もあればよいのではないかと。
4	・あいさつは素晴らしい。個人への細やかな対応は外からは見えにくいだが、取り組みに感謝します。 ・事故が発生してからでは遅いので、生徒自身が身を守り、マナーの向上に努めてほしい。 ・いじめ問題にもしっかり取り組んでいると思う。 ・災害時対策は地道に多面的に構築を進めていく必要があると思う。
3	・卒業式での皆勤賞が多いのに驚く。 ・サッカーを始め、文化・体育

学校目標・経営方針	自ら学ぶ態度の育成 体力と気力の充実 全人的な人格の形成		
本年度の重点目標	1 自ら学び自ら考える力を養う 2 確かな学力の定着と個性の伸長を図る 3 健康の増進を図り、豊かな人間性や社会性を培う	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上) B 概ね達成できた。(6割以上) C 不十分である。(4割以上) D 達成できなかった。(4割以下)

校長 飯田 春彦

評価	4 良くできている。 3 おおむねできている。 2 あまりできていない。 1 できていない。
----	---

平成31年度の重点目標					令和元年度末評価	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
3		【生徒会】 ③集団における自己の役割と責任を自覚させ、人と関わり合う力、他の立場を思いやる心を養う。	・リーダーとしての能力・資質育成の取り組み	クラスや部において、自分に与えられた役割や分担を理解し、リーダーとなって活躍したり、チームとなって取り組むことができた。リーダーが部を牽引し、その部の活動が学校全体を盛り上げることができた。応援するということの大切さや応援による力の大きさを実感できた。	B	リーダーとなる立場やそれを支える立場など、いろいろな立場があつて、集団が成り立っていることを実感させたい。選手や代表に選ばれることも重要であるが、周囲から支えられることや、周囲から支えることの重要性を認識し、各部門におけるメンバーの存在がリーダーを作り上げていることを知ってほしい。多くの生徒が、自分にできる部門のリーダーやメンバーとなって、支える側と支えられる側の両方を経験できる取り組みを考えたい。
	(6)生徒会・特別活動 ②学習活動と部活動等との調和を図り、「一人二芸」を推進する。	【生徒会】 ④学習活動と部活動等のそれぞれに高い目標を持ち、双方において成果をおさめる指導を推進する。	・教科学習と部活動等の両面からの指導	「ぎずなの日」を確実に実践することで、生徒の体力的精神的負担を和らげ、継続して活動できる雰囲気を作り掛けた。担任や教科担当の間で、長期休業中の課題の内容や量を相談して工夫する場面も見られ、様々な方面からも部活動が円滑に運営される支援がなされている。しかし、保護者からは、(生徒や教員に比べると)まだその意図が理解されていない面があり、生徒が実感して、家庭学習や家庭での過ごし方に変化が表れるまで、粘り強く取り組むことが求められる。	B	全校生徒の中で「文」と「武」の担当が分かれてしまわないよう、個人において両方の要素を持てるようにしたい。県や全国単位では、定期試験と大会や発表の時期が重なってしまう場面もあり、どうにもならない部分もあるが、長期的な計画を立てて見通しをつけて取り組み、最大限生徒の負担の軽減に努めたい。担任や教科担当だけでなく、部顧問の呼びかけも含めて、時間の使い方や学習方法の工夫、学習への意識づけに取り組みたい。
	(6)生徒会・特別活動 (9)学年指導・運営 (12)SSH ③一人一人が相互に尊重し合い、いのちを大切にすることを育む。	【1・2・3学年】 ⑥ 1学年:挨拶・5分前行動・清掃活動を通して基本的生活習慣を確立しつつ、相互に時間やものを大切にし、環境整備や美化に心がけさせる。QUの分析結果を活用しながら、HRで他者を思いやる気持ちを持った豊かな人間性の育成。主体的に考え行動できる人間関係を構築するための指導を工夫する。 2学年:日々のHR活動をベースに、学園祭や修学旅行のような学校行事での活動を通じて、他者を尊重しながら協力し合う経験を積ませる。また、職員間で密な情報交換を心がけ、QUアンケート(学級診断調査)の結果を予防的に活用するなど、指導や計画段階で工夫をする。 3学年:HRでの活動を通して、自己肯定感・他者尊重の意識を高めていくことができるよう配慮する。また、QUの結果を分析・検討することで、生徒の状況を事前に把握し、良好な人間関係の構築に活用できるよう工夫する。	1学年:集団行動時の活動評価(ポートフォリオ)、QUアンケート結果 2学年:行事後の個人振り返り内容、QUアンケート結果 3学年:各種アンケートや活動後の感想文・自己評価	1学年:基本的生活習慣の意識について、SHRや学年集会の折に触れ生徒と教師間で共有できた。その結果、あいさつを交わす習慣、互いの時間を大切にし、教室内外の公共物を美化し、私物を管理するなどの心がけについては、習慣が定着していることを高く評価できる。QUの分析結果については、生徒相互の人間関係と学校生活への意識の確認のため、特徴的な記載のある生徒については取り上げて学年会議の場で共有し、当該生徒の状況を継続観察することができた。 2学年:他者尊重や命の大切さについては日常のホームルーム活動を通じて触れるよう各担任が心がけて行ってきた。また、中堅学年として周囲との協力関係が一層求められた学園祭・平和や命の大切さについて認識を深める絶好の機会となった沖縄修学旅行を通じて、多くの生徒が人間的に大きく成長することができた一年だと捉えている。人間関係に起因する生徒同士の問題も発生したケースもあったが、学年職員で協力し早期に対応することができた。 3学年:多くの生徒は心身ともに健康で、良好な学校生活を送ることができた。年度を通して学校行事・部活動(文化部・運動部)等で中心となって活動し、素晴らしい成果を収めることができた。クラスにおいては、担任のきめ細やかな生徒観察・指導により、長期に欠席する生徒も見受けられず、今年度の目標である「進路希望の実現」に向けて取り組むことができた。	B	1学年:QUの2回目を12月に実施したので、特に高校生活の理想と現実への違和感、志望校選択に迷って入学してきた生徒、他者への配慮に欠ける人物や、学習怠学傾向にある生徒、自己肯定感が過剰に低い者への対応や指導に有効活用できるよう、結果を分析し、教師間で確実に共有し活用していけるよう、養護教諭やコーディネーターとも協力して取り組むことを目指す。 2学年:QUアンケートを2回実施し、要支援生徒の状況を職員間で共有するなど予防的に活用することができた。また、Classiについても、各種行事後に生徒が入力する「振り返り」の記載内容に目を通すことで内面の変化を把握し声かけのきっかけにするなど、生徒理解のための一手段として効果的に活用することができた。約二年間の本校での生活や様々な体験を通して人間的に大きく成長した生徒が多い中、目が届かない所で悩みを抱えていたり、人間関係上の摩擦が生じていたりするケースがあるという意識を忘れずに指導に臨みたいと考えている。 3学年:今年度から実施したQUアンケートの結果は学年内で共有し、生徒理解・指導に活かすことができた。普段の生活では見えてこない生徒の内面がアンケート結果に表れている部分もあった。日常の学校生活、進路実現に向けて取り組みを進めていく中で、不安や悩み、自信を喪失し精神的に不安定になってしまう生徒も少なからずいた。職員のきめ細やかな生徒観察・指導を継続していくことが不可欠である。次年度は全学年でClassiを利用することになるので、新たな活用方法を模索できるのではないか。
		【生徒会】【SSH】 ⑦近隣地域の保育園・幼稚園・小学校・中学校・支援学校・医療・福祉機関、企業や大学・研究機関との連携により、多様な教育資源の活用を推進する。	・学校説明会やオープンスクール参加者数、各種連携行事参加者数、各種ボランティア活動参加者数 ・各種行事の広報活動	【生徒会】各部において、演奏会や科学発表会などの地域交流や、小中学生を対象とした合同練習会などの支援事業を実施しているが、学校を上げての活動にはいない。行事の削減に伴い、大規模なものは不可能であるが、生徒の活動の様子や成果を地域に広めるためには有効であり、今後も工夫を重ねて実施していきたい。【SSH】「そう思う」「ほぼそう思う」が教員、生徒、保護者ともに80%を超えており、外部連携については広報・成果ともに良好な回答が得られた。	B	【生徒会】学校HPの活用や広報活動によって、さらに生徒の様子を地域に広げ、引き続き理解を求めていきたい。学校説明会などをみても、入学予定者からのニーズは高く、その要望に応える内容の工夫を考えて、広報活動や地域交流を実施していきたい。【SSH】HPや韮高だよりなどで広報をしていただいた結果、保護者にもSSHの成果が知られることとなっている。外部連携については今後広げるのではなく、内容を深めることを通して充実を図る。また、韮高メールの活用も通して広報にも努める。

記述回答	
評価点	意見・要望等
4	・学校生活は素晴らしい。部活動の活躍は素晴らしく、学校の活性化や意欲向上になっている。 ・支えることの重要性を認識させていることは大いに評価したい。
4	・学生の本分はあくまで「文」であるが、「武」も重要である。両方たたえ、かたよった人間に育てないでほしい。 ・どの学校にも共通する課題であり、それぞれの学校の状況も違う。韮高流の工夫改善を。 ・少子化により公立学校再編が必須の中、真の文武両道が本校の生きる道と考える。 ・時間の使い方をうまくして、さらに学校と家庭の過ごし方の向上を。
4	・韮高生は県下一挨拶ができるという評価がある。日頃の教員の指導や校風が確立している証である。 ・文武両道の実践は大変であり、教員と生徒の協力が必要である。 ・多様化する生徒への対応も注力して行ってほしい。 ・多面な目標に向かう生徒の育成を望みます。 ・相互理解、他人の人格の尊重を生徒に分かりやすく指導して行ってほしい。 ・学校生活を有意義なものにするために、色々なツールを使い努力していると感じます。
3	・説明会も韮高ならではの良いと思う。 ・SSHの発表会はレベルが高い。